



国際交流支援事業について ～各地方自治体の取り組み～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

国際交流支援事業について

クレアでは、地方自治体や地域国際化協会が主体的に行う国際交流事業のうち、交流の拡大や発展が見込まれ、地域住民などの幅広い参画が見込まれる事業に、対象経費の一部を助成しています。

今回、本事業の概要と 2023 年度に助成を行った事業の中から、3つの取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が行われることを期待しています。

【対象事業】

- 姉妹提携又は友好提携に係る記念事業
- 文化、芸術又は研究に関する交流事業
- 青少年交流に関する事業
- 国際会議に関する事業
- その他地域の特性を活かした交流事業

原則として、新規事業が助成の対象ですが、継続的に行われている事業であっても他の自治体や地域国際化協会のモデルとなるような、先駆的な事業であれば対象となります。

【対象団体】

都道府県、市区町村、地域国際化協会

【助成金額】

助成対象経費の 1/2 以内、上限は以下の金額

海外で行う事業・・・500 万円

国内で行う事業・・・300 万円

【国際交流支援事業掲載ホームページ】

<https://www.clair.or.jp/j/exchange/shien/page-5.html>

【お問い合わせ】

2025 年度事業につきましては、現在募集中です。詳しくは上記ホームページをご覧ください。

交流支援部交流親善課

Tel : 03-5213-1723 Mail : koushin@clair.or.jp



「札幌国際芸術祭」札幌市

札幌国際芸術祭 (SIAF) は、3年に一度、札幌で世界の最新アート作品を紹介するアートイベントです。札幌市は 2013 年にユネスコ創造都市ネットワークにメディアアーツ都市として加盟し、本芸術祭はその象徴的な事業に位置付けられています。

2024 年 1 月 20 日から 2 月 25 日にかけて開催した SIAF2024 では、国内外のアーティストによる作品展示に加え多数のイベントを実施し、その中で、本市と同様にメディアアーツ都市であるオーストリア・リンツ市の世界的文化機関「アルスエレクトロニカ」と連携した 4 つのプログラムを実施しました。「創造都市」に焦点を当てたクロストークや、オーストリア文化フォーラム東京所長がオーストリアの魅力を紹介するトークプログラム、最先端のコンピュータアニメーションの上映会、リンツ市からアーティストを迎えたピアノ演奏とデジタル映像によるプログラムなどのイベントを行い、国際レベルで活躍する人材との交流の機会を創出するとともに、「創造都市さっぽろ」の取り組みや魅力、メディアアーツがもたらす豊かな創造性などを国内外に広く発信しました。



ピアノ演奏とデジタル映像の融合「ピアノグラフィック」

日本で唯一のユネスコ・メディアアーツ都市として、他の加盟都市との間で単なる会議にとどまらない文化交流の機会を創出することで、都市活性化や多様な文化に触れるきっかけとしていきたいと考えています。

ふるさとの「歴史遺産を活かした国際交流事業」長野県長和町

縄文時代の黒曜石鉱山がある長和町は、イギリスブレックランド地域のフリント鉱山と、2016年に「双子遺跡」の協定を結び、博物館を窓口として、互いの地域文化と歴史・伝統を理解し合う国際交流を続けています。

小さな頃から黒曜石鉱山に通った子どもたちは、苦勞して掘り出された黒曜石が全国に流通していった背景に、貴重な資源を分かち合うことにより、平和で持続可能な自然共生型の社会を築く知恵があったと感じたようです。中学・高校生からなる「黒曜石大使」の任務は、ふるさとの遺跡に学び、自分たちが大切であると感じた普遍のメッセージを英語のプレゼンテーションと石器づくりのワークショップを通じて伝えようとするものです。

この活動は、地域ブランドとしての黒曜石の可能性を拡大しました。しかし、より重要なことは、日々の暮らしとふるさとを見つめなおすことが国際交流の基本であるという視点が子どもたちの発言から生まれたことです。2023年、コロナ禍を克服して再開した渡航事業では、オランダを経由し、ライデンにあるシーボルトコレクションの調査に活動領域を広げることになりました。コレクションに含まれていた「信濃和田峠ホシクソ」の書付がある黒曜石は、近代日本の幕開けに大きな影響を与えた、まさに「元祖黒曜石大使」だったのです。交流先で出会った子どもたちが誓いあった言葉は、“We'll make a future together (一緒に未来を創ろう).”でした。時代を超えて未来を築く礎が、ここにあります。



ストーンハンジでのデモンストレーション

「ブラジル・サンパウロ州との姉妹提携50周年交流事業～忍者をテーマとした三重の魅力発信」三重県

三重県は、1973年にブラジル・サンパウロ州と姉妹提携を締結し、幅広い分野で交流を行ってきました。

2023年には50周年を迎え、代表団を派遣するとともに、ブラジルでの認知度が非常に高く、かつ三重県と歴史的に深い関連性のある「忍者」をテーマとし、三重の魅力を発信しました。

「忍者展～忍者のふるさと三重～」では、伊賀流忍者博物館などの協力の下、「日本館」との共催により、約1か月間、忍具やパネルを展示し、来場者数は1万人を超えました。



忍者展～忍者のふるさと三重～

また、伊賀忍者特殊軍団「阿修羅」の3名が現地を訪問し、三重県人会創立80周年・三重県人移住110周年記念式典やサンパウロ大学などに



伊賀忍者特殊軍団「阿修羅」による忍者パフォーマンス

に対してパフォーマンスを披露しました。

さらには、三重県知事とサンパウロ州副知事の会談の場で、忍者から、その歴史などを紹介しました。同州副知事からは、「忍者の同席は、三重県が文化を大切にしている証」と好評であり、交流を円滑に進めるとともに、三重のプレゼンスを示すことができました。

忍者をテーマとした当事業は、30を超えるメディアにより発信され、サンパウロ州政府、ブラジル三重県人会、現地の若者など、幅広く三重の魅力を紹介できました。今後も、サンパウロ州とのさらなる友好関係の発展に向けて、引き続き交流を行っていきます。